

令和6年6月12日 研修委員 山口由弥

『乳がん薬物治療における大豆イソフラボン由来エクオールの有用性について』

講師：福島県立医科大学医学部乳腺学科学講座 主任教授 大竹 徹 先生

#### ・乳がんの背景

日本における乳がん死亡率は欧米に比べ低いですが、近年増加しており、最近ではフラットになりつつある

乳がんの死亡率の低下は、薬物療法、マンモグラフィ検診が影響している

#### ・薬物療法

早期乳がん 手術だけではなく、術前術後における薬物療法が意義を持つ

閉経前：抗エストロゲン薬（タモキシフェン等）

5年継続、最近では10年間でスタンダードに

ほてりやホットフラッシュが起きやすい

閉経後：アロマターゼ阻害薬（アナストロゾール等）

関節痛、こわばりなどが起きることがある

LH-RH アゴニスト（リュープロレリン等）

閉経状態になる 化学療法後に使用 閉経前であればほぼ全例に使用

#### 共通の副作用

エストロゲンを一気に下げるため、更年期症状が出る。

中性脂肪が高くなる

患者に副作用の共有、QOL低下の場合は支持療法を検討する

#### ・エクオールについて

大豆イソフラボンの代謝物

抗エストロゲン作用があるのではないか

エクオールが体内で産生されるかは、人種による（腸内細菌影響）

子宮や乳腺等に存在するエストロゲン受容体 $\alpha$ に対し、

骨や脳などに存在するエストロゲン受容体 $\beta$ への親和性が高いため、発がん率は上がらないのでは

認知症や骨粗鬆症、皮膚のつやがよくなるなど

日本人は欧米人より大豆イソフラボンの摂取量が多いからか、ホットフラッシュや前立腺がんの発生率が低い

エクオールは欧米人約 30%に対し、日本人約 50%

エクオールの効果は即効性がないが、数ヶ月でなんとなく効いてくる感じ

タモキシフェン服用でホットフラッシュ、アナストロゾール服用で関節痛がある患者へエクオールをすすめるケースもあり、有害事象をコントロールさせる効果に期待

